

医学研究科看護学専攻博士前期課程の3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針＝育成する人材）

本博士前期課程では、所定の修業年限在籍し、修了要件となる単位を取得するとともに、修士論文の審査及び最終試験に合格し、下記の能力と姿勢を有するものに学位を授与する。

1. 課題解決能力

看護実践において科学的根拠に基づいて課題を分析し、最善策を見出す能力

2. 看護倫理を追究する姿勢

学祖高木兼寛の"病気を診ずして病人を診よ"の理念に従って看護の対象者とのパートナーシップに基づいて協働し、対象者の最善の利益を追究する姿勢

3. 多職種協働・地域医療連携能力

保健医療福祉システムの中で、学祖高木兼寛の"医師と看護師は車の両輪の如し"の理念に従って看護の専門性を活かし多職種と連携・協働する能力

4. リーダーシップ

システム改善に向けてメンバーの力を活用し、自ら組織を主導する能力

5. 国際的視野から看護を考える能力

国際的視野から日本の看護の特性を理解し、看護を考える能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

1. 課題解決能力を育成するために、「看護研究方法」を共通必修科目として、「医療統計学」を共通選択として1年次に、「感染防御論」を共通選択として2年次に配置している。また、「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」において修士論文を全学生に課している。さらに、専門科目で強化している。

2. 看護倫理を追究する姿勢を育成するために、「研究倫理特論」を共通必修科目として、「看護倫理特論」「看護理論特論」を共通選択として1年次に配置し、「看護歴史学」を共通選択で2年次に配置している。さらに、専門科目で強化している。
3. 多職種協働・地域医療連携能力を育成するために、「保健医療システム論」「コンサルテーション論」「看護管理学概論」を共通選択科目として1年次に配置している。さらに、専門科目で強化している。
4. リーダーシップ能力を育成するために、「看護教育特論」を共通選択科目として1年次に配置している。さらに、専門科目で強化している。
5. 国際的視野から考える能力を育成するために、「国際医療論」を共通科目として2年次に配置している。さらに、「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」で強化している。

アドミッション・ポリシー（入学者に関する受入方針）

本博士前期課程のカリキュラムを修得し、修了時に求められる能力を達成できる学生として、入学時に以下の人を求めている。

1. 看護基礎教育を受け、専攻分野における基礎知識を有している者
2. 看護における課題意識を持ち、学修・研究する基礎的能力がある者
3. 将来、看護実践の場あるいは教育や研究の場で貢献する意志がある者

入学試験では、専攻分野における基礎知識を専門科目の筆記試験で評価する。看護における課題意識は書類審査と面接試験で評価する。また、学修・研究する基礎的能力の一部は英語の筆記試験で評価する。さらに、将来、看護実践、教育、研究の場で貢献する意志は、面接で評価する。